

# Annual Report 2011

A

ttention

C

hange

T

rust

I

magination

O

nly one

N

etwork

## 組織概要(<http://www.cancernet.jp/organization>)

正式名称: 特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン

通称: NPO法人キャンサーネットジャパン 英語表記: CancerNet Japan, NPO

所在地: 〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2御茶ノ水K&Kビル2階

電話: 03-5840-6072 ファックス: 03-5840-6073

## 理事(<http://www.cancernet.jp/staff>)

理事長: 岩瀬 哲(東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部 副部長)

理事: 小西 敏郎(NTT東日本関東病院 副院長・外科部長、兼東京医療保健大学教授・慶應義塾大学講師)

理事: 大橋 靖雄(東京大学医学部研究科公共健康医学専攻 教授)

理事: 坪井 正博(横浜市立大学医学部外科治療学教室・准教授)

理事: 梅田 恵(株式会社緩和ケアパートナーズ 代表)

理事: 後藤 悌(東京大学医学部呼吸器内科 助教)

理事: 川上 祥子(NPO法人キャンサーネットジャパン 広報担当理事)

理事: 柳澤 昭浩(NPO法人キャンサーネットジャパン 事務局長)

監事: 久保井 摂(九州合同弁護士事務所 弁護士)

## 外部評価委員・アドバイザリーボード(<http://www.cancernet.jp/board>) 代表(西條 長宏)以下は五十音順

西條 長宏(日本臨床腫瘍学会事務局 特別顧問)

青谷 恵利子(北里大学臨床薬理研究所 臨床試験コーディネーティング部 部長)

青野 ひろみ(三井記念病院 呼吸器内科 医長)

井上 彰(東北大学病院 呼吸器内科 助教)

上園 保仁(国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長)

上野 直人(テキサス大学MDアンダーソンがんセンター・教授)

江口 研二(帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 教授)

大西 秀樹(埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科 教授)

小篠 洋一(メディアサイト株式会社 常務取締役)

勝俣 範之(日本医科大学武蔵小杉病院 教授)

鏑木 毅(株式会社トレイルランニングワールド トレイルランナー)

唐澤 久美子(放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院 治療課 第3治療室長)

黒田 尚子(ファイナンシャル・プランナー 乳がん体験者)

小嶋 修一(TBS 報道局解説委員兼報道局 プロフェッショナル部長)

斎藤 博(国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 検診研究部長)

佐治 重衡(京都大学 特定准教授)

清水 哲(神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌科 部長)

上坊 敏子(社会保険相模野病院 婦人科 腫瘍センター長)

代田 昭久(杉並区立和田中学校 校長)

杉原 健一(東京医科歯科大学 腫瘍外科 教授)

滝口 裕一(千葉大学大学院医学研究院 先端化学療法学 教授)

竹中 直純(株式会社ディジティ・ミニミ 代表取締役)

武原 信正(ライフサイエンス株式会社 代表取締役)

土井 卓子(湘南記念病院 かまくら乳がんセンター センター長)

富樫 直美(NTT東関東病院 産婦人科)

中井 美穂(フリーアナウンサー)

中村 清吾(昭和大学医学部 乳腺外科 教授)

成田 善孝(国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科 副科長)

仁科 晴弘(江東病院 外科 緩和ケアセンター 緩和ケアセンター長)

野村 久祥(杏林大学医学部附属病院 薬剤部・がん専門薬剤師)

廣常 啓一(株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長)

藤原 恵一(埼玉医科大学国際医療センター婦人科腫瘍科 教授)

藤原 康弘(国立がん研究センター中央病院 乳腺科・腫瘍内科 科長/副院長)

古川 俊治(参議院議員)

古瀬 純司(杏林大学医学部 内科学腫瘍内科 教授)

堀江 重郎(帝京大学医学部 泌尿器科学 教授)

牧本 敦(国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科 科長)

宮城 悦子(横浜市立大学附属病院 准教授・化学療法センター長)

向井 博文(国立がん研究センター東病院 化学療法科 医長)

矢形 寛(聖路加国際病院 乳腺外科 副医長)

山内 英子(聖路加国際病院 乳腺外科 部長)

山口 拓洋(東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野 教授)

山崎 多賀子(美容ジャーナリスト・乳がん体験者)

山本 精一郎(国立がん研究センター がん対策情報センター 室長)

渡邊 古志郎(横浜市立市民病院 名誉院長)

NPO法人キャンサーネットジャパンは、1991年6月、南雲 吉則・吉田 和彦の二人の若い医師(現在、いずれも勇退)が、米国国立衛生研究所発行の乳がん患者向けパンフレットを翻訳、自費 **113.9** 出版し無料配布を開始したのが始まりです。

当時は、インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンという言葉すら一般的でなかった日本において、がん(乳がん)患者自らが、科学的根拠に基づく、正確な知識・情報を得られる書籍はなく、先駆的活動として注目されました。翌1992年には、それら10冊の冊子をまとめた書籍「あなたと乳がん」を出版し、全国に無償配布しました。その後、「乳がんの発見」(祥伝社刊)などの書籍を出版・販売開始しました。それから、はや20年の月日が流れました。

その後、それら書籍の出版収益をもとに、米国国立がん研究所が提供するNCI PDQ日本語訳のファックスでの提供(キャンサーファックス)、電話ファックス・メールでのボランティア医療者によるがん医療相談(セカンドオピニオンコール)、インターネット上におけるNCI PDQの公開など新たな活動も開始しました。また、2000年には、現在の主要事業の一つである患者・一般の方を対象とした「EBMセミナー」を開始しました。私は、これらの情報を提供するボランティア医師として参加したのが、当法人との関わりです。

2001年8月には、東京都よりNPO(特定非営利活動法人)の認証を取得し、翌2002年には、私たちのホームページが日経インターネットアワードを受賞するに至りました。その後、日本におけるがん医療環境の変化を鑑み、十分な情報がない中、科学的根拠に基づく正確な情報を発信するという事から、増え続ける情報の中、科学的根拠に基づく正確な情報へ繋げることが私たちの使命・役割とし、2007年1月より、ミッション・ビジョンを新たにし、東京御茶ノ水に専用事務局を開設し、専属スタッフを擁し、新生キャンサーネットジャパンとしての活動を開始しました。昨年、2011年はNPO法人格の認証を得てから10年の節目を迎えた事になります。

2007年1月、私と当時の理事、専属スタッフは、新生キャンサーネットジャパンを、今では徐々にその認識が普及してきた、官でも、民でもない「新しい公共」として、NPO法人として自立した組織にするとの目標を掲げ、この5年間、活動を続けてきました。**71.8** その間、様々な問題にも直面し、必ずしも順風満帆ではありませんでしたが、多くの理解者、支援者のおかげで、設立20年、NPO認証取得10年、新生キャンサーネットジャパンとして5年という節目を迎える事ができました。これもひとえに皆様の温かいご理解と、ご支援があつてこそ、と心より御礼申し上げます。

このページの背景にある **63.0** のが、2007年度からの私たちNPO法人キャンサーネットジャパンの総事業高の推移です。**63.0** 2007年1月、600万円の通帳1冊からスタートし、「5年後には、1million(1億円)規模のNPOを目指そう」と冗談のように口にしていたことが現実のものとなりました。事業規模を大きくする事は、目的ではありません。しかし、大きくなる事でできる事もあります。また、大きくならなければならないこともあります。ここに2011年度(2011年4月～2012年3月)の活動報告をまとめました。皆様のご理解とご支援に感謝し、今後も、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

NPO法人キャンサーネットジャパン  
理事長 岩瀬 哲



 CancerNet Japan

2007

2008

2009

2010

2011

(年)

### 【ミッションとは？】

あらゆる団体・組織において最も重要な事は、その団体・組織が何のために存在し、社会の中でどのような意味を持つかを、定義している事です。

CNJでは、CNJの存在の意味と、果たすべき使命(Mission)を、理事・スタッフ全ての者が理解し共有する事が重要であると認識しています。

### 【ビジョンとは？】

あらゆる団体・組織においては、明確な使命(Mission)の策定と、関与する全ての者の理解し共有することです。

CNJでは、その使命(Mission)に基づく活動を通じ、どのようにになりたいか、そして社会の中でどのような役割を果たしたいかを明確にしています。

### 【私たちのメッセージについて】

「もっと知ってほしいXXがんのこと」と銘打ち実施した初めてのセミナーは2008年5月18日に大阪で開催した「乳がん」をテーマにしたセミナー。

その後「もっと知ってほしいXXがんのこと」はシリーズ化し、現在では大小合わせ年間50～60回ものセミナーを開催するに至っています。

## 【CNJのミッションとビジョン: Our Mission & Vision】

<http://www.cancernet.jp/mission>

### わたしたちの使命(Our Mission)

わたしたちのミッション(使命)は、がん患者が本人の意思に基づき、がん治療に臨むことができるよう、患者擁護の立場から、科学的根拠に基づく、あらゆる情報発信を行うことです

### Our Mission(わたしたちの使命)

The mission of CancerNet Japan, CNJ, is to adopt a patient-centered point of view and provide as much information about cancer based on scientific evidence, and by doing so we aim to ensure that cancer patients will have confidence to take the initiative when they make critical healthcare decisions.

### わたしたちの夢(Our Vision & Dream)

わたしたちのビジョン(夢)は、がん体験者・家族・遺族、その支援者、医療者と共に日本のがん医療を変えがんになっても生きがいのある社会を実現することです

### Our Vision & Dream(わたしたちの夢)

Our vision is to create a vibrant community where cancer patients can live fulfilling lives. We will endeavor to build a strong and innovative foundation for cancer care by collaborating with patients, families, survivors, supporters, and medical professionals in order to make a difference in the lives of cancer patients.

## 【わたしたちのメッセージ: Our Message】

# Know (≠No) More Cancer

“No More Cancer”ではありません。”Know More Cancer”です※。

毎年70万人以上もの人ががんに罹患し、多くのがん体験者が生活する今「がん撲滅」、「がん征圧」はしつくりきません。まずは、もっと、がんを、知ることからはじめませんか？

※正確には、Know More about Cancer. ですが、このメッセージではあえてKnow More Cancerとしています

We value the concept, “Know More About Cancer”, because the goal of “No More Cancer” is not realistic. Every year, more than 700,000 people are newly diagnosed as having cancer in Japan. It is not realistic, therefore, to aim for the “complete elimination” of cancer. Instead, we start with the goal of “getting more knowledge about cancer.”

## 【CNJの沿革: Our History】

<http://www.cancernet.jp/story>

1991年6月、南雲 吉則(元代表・元顧問、2011年度退任)、吉田 和彦(元理事・元理事長、2011年度退任)が、米国国立衛生研究所発行の乳がん患者向けパンフレットを翻訳自費出版し無料配布を開始したのが当団体の始まりです。当時は、インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンという言葉すら一般的でなかった日本において、がん(乳がん)患者自らが、科学的根拠に基づく、正確な知識・情報を得られる書籍はなく、先駆的活動として注目されました。翌1992年には、それら10冊の冊子をまとめた書籍「あなたと乳がん」を出版し、全国に無償配布しました。その後、「乳がんの発見」(祥伝社刊)などの書籍を出版・販売開始しました。

それらの出版の収益を元に、米国国立がん研究所が提供するNCI PDQ日本語訳のファックスでの提供(キャンサーファックス)、電話・ファックス・メールでのボランティア医療者によるがん医療相談(セカンドオピニオンコール)、インターネット上におけるNCI PDQの公開など新たな活動も開始しました。また、2000年には、現在の主要事業の一つである患者・一般の方を対象とした「EBMセミナー」を開始しました。





2007年以降は、新たにしたミッション・ビジョンに基づき、セミナーの開催、各種冊子の発刊に加え、より広く情報を届けるために、日々進歩するtwitter・facebook・USTREAM・YouTubeなどソーシャルメディアにも積極的に取り組み、様々な団体・組織と連携し、情報発信を続けています。



We have a deep commitment to three goals relating to cancer outreach. 1. Increasing awareness, 2. Seeking knowledge and 3. Sharing knowledge. Innovation is driven by “awareness.” Awareness leads to a demand for “knowledge.” The more new knowledge we find, the more we need a place where we can “share” that knowledge with others. In keeping with our patient-centered approach, CNJ firmly supports the efforts of those who want to know, learn, and work together to fight cancer. We believe that we can overcome any obstacles that may stand in our way as we work toward these goals. [Our passion is to make a difference in the lives of patients!]



平成 19 年 1 月吉日

**第 5 回乳がん体験者コーディネーター養成講座のご案内**

日時:平成 19 年 2 月 4 日(日)  
午後 1:00 開場・1:30 開演～午後 4 時 45 分  
住所: 東京ウィメンズプラザホール  
場所: 東京都渋谷区神宮前 5-53-67  
参加費: ¥1,000、(懇親会参加の場合+¥3,000-)

● 1:30-1:45 開会の挨拶  
NPO 法人キャンサーネットジャパン 代表 南宮 吉剛  
「新生キャンサーネットジャパンについて」

● 1:45-2:45 基調講演  
座長: NPO 法人キャンサーネットジャパン 理事長 吉田 和彦  
「乳がん患者が知っておくべき基礎知識と最近の乳がん治療の進歩」  
演者: 帝京大学医学部外科 教授 池田 正 氏

左: CNJ創設者1991年6月、南雲 吉則(元代表・元顧問、2011年度退任)、吉田 和彦(元理事・元理事長、2011年退任)らが、翻訳し出版した米国国立衛生研究所発行の乳がん患者向けパンフレット。  
中: 2007年に初めて開設した文京区湯島のCNJ専用事務局。当時のスタッフは、事務局長と広報担当理事の2名。現在は、常勤スタッフ6名に加え、ボランティアスタッフ数名と、ボランティアスタッフ、インターンの大学生で事務局運営。  
右: 現在も続けるCNJボランティア、スタッフによるがん診療連携拠点病院などへのセミナー・プログラムの発送作業の様子。

新生CJ]として初めて実施した2007年2月4日(日)東京ウィメンズプラザで開催した「乳がん体験者コーディネーター」に関するセミナー。基調講演には、帝京大学医学部外科の池田正先生を招聘。この講座は現在、第7期まで終了。写真右は、当時のセミナー案内状。

インターネットが、がん医療情報の情報源の第1位となった現在、ソーシャルメディアの利用、様々な形式での動画配信にも取り組んでいます。

[illegible]

【1991年】当時は、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンといった言葉も一般化していませんでした。

【1992年】先進的な取り組みとして多くのメディアにも取り上げられました。

【1994年】インターネットも十分普及していない時代、ファックスを利用した情報発信の取り組みは注目を集めました。

【1995年】欧米においてはインターネット上で、医療者向け、患者向けの情報発信が普及し始めた頃、日本語での提供は、日本で初めての取り組みでした。

【1996年】情報発信だけでなく、ボランティア医師によるセカンドオピニオンを開始しました。

【2000年】今も続く、セミナー形式での情報発信「EBMセミナー」をスタート。

【2002年】NPO(特定非営利活動法人)化と共に、自治体・教育・NPO部門において日本経済新聞社賞を受賞。

【2007年】がん対策基本法の成立・施行を背景に、今後益々重要となるがん医療領域におけるNPOの役割を果たすべく、専用事務局を専属スタッフでスタート。

【2009年】新理事長に岩瀬 哲(東京大学病院緩和ケア診療部 副部長)が就任し、現在、理事9名(理事長含む)、アドバイザリーボード45名体制(2012年4月現在)となる。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1991 | NIH許可の元、乳がん患者向け冊子(10冊)を翻訳・出版無償配布。<br>With the permission of the NIH, ten medical brochures for patients with breast cancer were translated into Japanese, and distributed without charge.                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1992 | 10冊の冊子をまとめ「あなたと乳がん」を出版し、全国に無償配布。<br>The ten brochures were consolidated into a book entitled “Breast Cancer and You,” and distributed throughout Japan without charge.                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 1994 | 「乳がんの発見」(祥伝社刊)を出版・販売。NCIキャンサーファックスを翻訳提供するサービスを開始(現在終了)。<br>A book entitled “Discovering Breast Cancer” was published and marketed by Shoden-sha. A translation service called the NCI Cancer Fax (National Cancer Institute Cancer Fax) was launched (the service was later terminated).                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1995 | キャンサーネットジャパン(CancerNet Japan)を設立。NCI PDQの翻訳とウェブ上での公開(現在更新終了)。<br>Cancer Net Japan (CNJ) was formally established. Through a service called the NCI PDQ (National Cancer Institute Physician Data Query) information about cancer was translated into Japanese and posted on our website (the service was later terminated).                                                                                                                                                                                                                 |
| 1996 | 電話・手紙・メール・ファックスでの「セカンドオピニオンコール」開設(現在終了)。<br>A program was introduced called “Second Opinion Call” that used media such as telephone calls, letters, e-mails, and faxes to provide information about second opinions (the service was later terminated).                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1997 | セカンドオピニオン外来の開設。<br>An outpatient program for providing second opinions was introduced.                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 2000 | 患者・一般向けのイベント「EBMセミナー」を開始。<br>CNJ began to offer “EBM Seminars” (Evidence Based Medicine Seminars) for both patients and healthy individuals.                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 2002 | 東京都よりNPO法人格を取得。キャンサーネットジャパンホームページが日経インターネットアワードを受賞。<br>CNJ obtained the status of Non Profit Organization from the Tokyo Metropolitan Government. The CNJ Homepage won the Nikkei Internet Award Prize.                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2007 | 東京都文京区湯島(御茶ノ水)に事務局を開設。吉田 和彦(東京慈恵会医科大学附属青戸病院 副院長)が理事長に就任。第1期乳がん体験者コーディネーター養成講座・がん情報ナビゲーター養成講座開講。<br>CNJ established an administrative office at Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo. Kazuhiko Yoshida, M.D., Vice President of Aoto Hospital at the Tokyo Jikei University School of Medicine was appointed as the chairman of the board of directors. A Coordinator Training Course for Breast Cancer Survivors (for Breast Cancer Education Coordinators, BEC) as well as a training course for the Cancer Information Navigator (CIN) were started. |
| 2009 | 新大阪に大阪事務局を開設。新理事長に岩瀬 哲(東京大学病院緩和ケア診療部 副部長)が就任。東京事務局を本郷に移転。<br>CNJ established an Osaka office at Shin-Osaka. Satoru Iwase, M.D., Vice Director of the Department of Palliative Medicine at Tokyo University Hospital took over as the new chairman of the board directors. We moved to new Office to Hongou area.                                                                                                                                                                                                                            |
| 2010 | 事業規模拡大に伴い、NPO法人キャンサーネットジャパンは、新オフィスに移転。<br>Because of the expand of business size, CNJ office moved to Yushima area.                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

【Awareness】  
「知る:科学的根拠に基づくがん医療情報の普及・啓発事業」  
<http://www.cancernet.jp/eve.html>

CNJでは、CNJ主催、他団体との共催等、がん種別テーマ別に、様々なイベント・セミナーを開催しています。

CNJがん医療セミナーの基本コンセプトは、より多くの方々が最良のがん医療にたどり着くために、患者・家族・一般の方々だけでなく、医療者、関連企業、報道関係者等との情報・問題の共有が重要と考えており、どのような立場の方にもご参加頂ける公開(オープン)セミナーとしています。

従来の「もっと知ってほしい」シリーズはじめ、主催・共催あわせて年間50回以上のセミナーを企画・開催しました。



## 大腸がん啓発ブルーリボンキャラバン

<http://www.cancernet.jp/brc/>

メルクセローノ株式会社の特別協賛、大腸癌研究会他後援のもと、各地の大腸がん診療に関わる医師を演者に、松山(7月9日)、札幌(9月3日)、大阪(12月4日)、金沢(12年1月28日)、東京(12年3月17日)5か所にて「もっと知ってほしい大腸がんのこと」を開催しました。各地のセミナーの様子は、「もっと知ってほしい大腸がんのこと」特設サイトにて動画配信されています。



## UDXオープンカレッジ「Meet the Experts」

<http://www.cancernet.jp/event/udxopencollege>

株式会社新産業文化創出研究所、メディアサイト株式会社等との共催で、原則毎月第3土曜日に、秋葉原UDXを拠点に、UDXオープンカレッジ「Meet the Experts がん専門医に訊く」を開催してきました。

「Meet the Experts」がん専門医に訊く」では、肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がんなど、各回ごとにテーマを設け、その分野のエキスパートを招き、専門医によるレクチャーとパネルディスカッションだけではなく、Q&Aコーナーなども設け開催しました。



各地のセミナーでは、NHK大河ドラマ「龍馬伝」紀行のBGMを担当したギターデュオ「いちむじん」がライブを行い、オリジナルテーマ曲「みちのり」も作曲されました。タイトル書は書家：川尾 朋子氏による作品。



## CNJがん情報ビデオライブラリー

<http://www.cancernet.jp/video/>

2008年11月より、メディアサイト株式会社支援・協力のもと、全国どこからでも、インターネット環境下であれば、「必要な情報を」、「必要な時に」、「必要なだけ」得ることができる「CNJがん情報ビデオライブラリー」を開設しています。

収録した映像は「がん情報ビデオライブラリー」より、配信しています。2008年秋にメディアサイト株式会社の協力によりCNJホームページ上に開設した「がん情報ビデオライブラリー」は、がん医療セミナーや専門医の講義を、「いつでも」、「どこでも」視聴でき、100,000回を超える再生数となりました。



## 【Learning】

# 「学ぶ:科学的根拠に基づくがん医療情報を提供する人材養成事業」

<http://www.cancernet.jp/training>

### 【養成講座の変遷】

2007年の「がん対策基本法」施行にあわせて開講した「乳がん体験者コーディネーター(以下BEC)」と「がん情報ナビゲーター(以下CIN)」養成講座は、2011年度7期を終えて、これまで300名を超える認定者を輩出してきました。

BEC受講生は、既に患者会等の活動で患者サポートに携わってこられた方、患者会活動等のご経験が全くない方、メディアの立場で情報発信をされている方、医療従事者の方、など背景は様々ですが「自身のがん体験を活かして社会に貢献したい」との動機は共通です。同じ志を持つ仲間が縦横に繋がり、認定後のBECの方々の活動は、がん患者・家族のサポートだけでなく、がん啓発講演活動、サバイバーによるコーラスグループ結成、等の活動に発展しています。

5年目に入った「がん対策基本計画」が見直しされた2012年の計画のなかには、がん患者の相談支援を充実させるために「ピアサポート」という文言も新たに加わり、今後ますますBECのコンセプトに対する需要の高まりが予想されます。

CIN受講生の背景は、がん医療現場に携わる看護師、ソーシャルワーカー等のメディカルスタッフをはじめ、がん医療関係企業の方、がん体験者、病院事務担当者、生命保険業界等さまざまです。それぞれの方が「科学的根拠に基づくがん医療情報」とはどのような情報なのか、そこにどうアクセスするか、どう解説するか、についてCIN養成講座を通して系統的に学び、日々の活動を通して実践されています。

CNJでは、BEC・CINの認定者の方々の活動報告と情報交換の機会を兼ねて、年間1回の「フォローアップ総会」を開催しています。

2007年6月15日に閣議決定された「がん対策基本計画」には、「今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等(以下「関係者等」という。)が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんに向き合い、がんに負けることのない社会」の実現を目指すこととする。」と言及されています。すなわち、これまで行政、医療者主体で進められてきた「がん対策推進」に、がん患者を含めた国民他、様々な立場の団体・関係者が関与するよう求められています。

今後、がん患者・家族のニーズに応じた「がん医療対策」を進める上においても、また実際に、がん患者・家族が求め、提供されるべき医療情報・サービスを提供するためにも、医療者のみならず、「がん対策推進」に関する者が、「各がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報」等についての知識を有する事は必要最低限の要件となると思われます。

このような背景より、NPO法人キャンサーネットジャパンでは、「がん医療対策推進」に関する者(関わりとうとする者)、またこれまでの活動背景より、自身の体験をもとに乳がん領域で関わりを持つ者(持とうとする者)を対象に、科学的根拠に基づいた良質で、信頼性の高いがん医療情報を理解し、またその時々最新のがん医療情報にアクセスし、かつそれらの医療情報を患者の言葉に換える事のできる「認定がん情報ナビゲーター(CIN)」、「認定乳がん体験者コーディネーター(BEC)」の人材養成講座を開講しています。

「認定がん情報ナビゲーター(CIN)養成講座」は2008年株式会社日本医療事務センター(以下、NIC)との業務提携により、2009年の5期講座からは、Web上で受講できるe-learning講座となり、より幅広く、多くの方に受講いただき、がん医療に関与される方のスキルアップとして貢献することができました。

「認定乳がん体験者コーディネーター(BEC)養成講座」も、第6期からは、CIN同様、Web上で受講できるe-learning講座としたことで、より多くの方に受講頂けるようになりました。

### ・乳がん体験者コーディネーター養成講座(<http://www.cancernet.jp/bec.html>)

自身の「がん」の体験を活かし、社会に貢献したい人達がいます。また、わたしたちはそのような人材が日本のがん医療を、社会を変える力があることを信じています。日本女性罹患数第一位の乳がん。その予防・診断・治療の進歩は目覚しく、自身の体験だけでなく、患者の気持ちを理解しながらも、その時々最新の情報を知ることが重要です。この養成講座は、日本の乳がん領域を代表する現役医療者を始めとした講師陣によるプログラムです。

### ・がん情報ナビゲーター養成講座(<http://www.cancernet.jp/cin.html>)

今や、「がん」と診断された多くの患者の情報源は、インターネットと言われています。しかし、インターネットを利用したがん情報の収集は大きな危険性をはらんでいます。これは医療者にとっても同じです。この講座は、各領域を代表する医師を始めとした講師陣による講義に加え、いかに信頼性の高い情報にたどり着くかを学びます。

2009年7月から開講された第5期からは、この講座の教育的意義を考慮し、より多くの方の受講を可能とするため、「オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システム」を用いた、インターネット環境下であれば「日本を代表する講師陣」による、「いつでも」、「どこでも」を実現する養成講座として新たにスタートしました。

また、第5期からは、本養成講座のプログラムアドバイザーに西條 長宏先生(近畿大学医学部腫瘍内科 教授)を迎え、これまでになかった新しいコンテンツも含め、領域を代表する医療者による、がん医療に関わる職種・立場を問わず受講可能な類を見ない養成講座となりました。





## 【Sharing】

### 「集う:科学的根拠に基づくがん医療情報を提供するがん情報ステーション他」

・がん情報ステーション(<http://www.cancernet.jp/ganst.html>)

CIN・BEC養成講座修了者を中心に、科学的根拠に基づくがん患者・家族に必要な医療情報が提供できる場所「CNJがん情報ステーション」を開設しています。「CNJがん情報ステーション」のコンテンツは、医療者の指導の下、BEC・CINが「がん医療情報」に関する勉強会等を提供し、がん患者・家族にとって有益な情報を、インターネット、既存の有益な書籍・冊子などを通じ提供できる場所を目指しています。

・草の根がん啓発活動(<http://www.cancernet.jp/kusanone.html>)

地域の公共施設や、法人・団体等とタイアップし、一般の方に「がんを知ってもらう」ことを目的として、BEC(乳がん体験者コーディネーター)や、CIN(がん情報ナビゲーター)が中心に、講演会・勉強会等を行い、草の根的な普及啓発活動を行なってきました。2010年からは、神奈川県と協働でがん体験者によるピアサポート事業を開始しました。

## 【Collaborations】

### 「連携:科学的根拠に基づくがん医療情報を提供する組織との連携」

2010年度CNJでは、がん患者団体・支援団体、がん医療関連学会、厚生労働省科研費班研究、がん関連NPOなどとの連携・協業イベント、プログラムの実施の他、様々な団体・組織・企業との連携事業を実施しました。

・アピタル(朝日新聞 健康・医療サイト)との協働プログラム

<http://www.cancernet.jp/bcnight/>



ネクスティア生命保険株式会社の特別協賛、アピタル(朝日新聞 健康・医療サイト)との共催のもと、日本人女性で最も罹患者の多い乳がんを取り上げ、疾患啓発、診断・治療の情報を広く伝えるため、「アピタル乳がん夜間学校」を開講しました。同プログラムは、乳がんの好発年齢や、ソーシャルメディアの普及を考慮し、毎月第3水曜日の午後9時に開講し、司会には乳がん体験者でモデルのMAIKOさん、美容ジャーナリストの山崎 多賀子さん、講師には日本を代表する乳がん診療にあたる医療者を招き全12回のライブ配信、また現在も映像アーカイブを配信しています。



2008年から、事務局内に設置の「がん情報ステーション」にてBEC・CIN認定者らを中心としたピアサポートの機会と場を提供しています。また、2010年からは、神奈川県との協働事業として、横浜市内「カドベヤ」(中区石川町)と、県内がん診療連携拠点病院である、JA神奈川厚生連相模原協同病院でピアサポート事業を開始し、2012年度は県内3か所の拠点病院での実施に発展しています。

また今年4月からは、相模原市、東京都立駒込病院からもピアサポート事業を受託しています。CNJでは「科学的根拠に基づくがん医療情報」にアクセスし・理解し・解説できる力でがん体験の価値を高め、傾聴・共感をベースに医療者と有機的連携を図れるピアサポートをめざし、サポーターの方々と研鑽を重ねています。今年は、ピアサポート事業の評価も視野に入れた取り組みを計画しています。



「アピタル乳がん夜間学校」をきっかけに、毎週火曜日には、事務局長:柳澤 昭浩と、広報担当理事:川上 祥子が、「がんを知る夜間学校」とのタイトルで、アピタルブログの連載を開始しました。

<http://www.asahi.com/health/>

## 【冊子の刊行】

「MBS×CNJ on the WEB」などのプログラムを通じ、異なる領域の組織(NPO・製薬企業・放送局など)が連携し、それぞれが持てるリソースを提供し、患者・家族にとって有用な冊子製作に取り組みました。

この冊子では、「Patient's VOICE」といったコラムを設け、実際の患者さん、ご家族へのインタビューを実施し、冊子に反映し、これらのインタビューはMBS夕方ニュース番組でも紹介され、多くの反響を得ました。



これらの冊子は、CNJのホームページ他、制作協力企業のホームページからもダウンロードが可能で、全て無償で公開しています。

発刊時には、CNJより全国のがん診療連携拠点病院の相談窓口等に送付しました。

## ・毎日放送(MBS)との協働プログラム

<http://www.cancernet.jp/mbscnj/>

日本イーライリリー協力のもと、関西(近畿2府4県と徳島)をカバーする放送局:毎日放送(MBS)との共催で、「MBS×CNJ on the WEB」と題し、テレビ局との連携にて、がん疾患啓発、がん検診率向上、がん医療情報の普及などを目的に、インターネット配信(事後に映像アーカイブ配信)プログラムをスタートしました。

MBSは、2011年1月からは夕方ニュース番組「VOICE」で、JUMP OVER WOMEN CANCER“女性とがん”キャンペーンを展開し、2012年からは“Jump Over Cancer”に発展し、全国的に見て低い関西のがん検診受診率UPを目指す「がん検診啓発キャンペーン」を展開するテレビ局です。



## ・ロックバンドとの協働プログラム

<http://www.cancernet.jp/mhf4car/>

2008年11月30日、肝細胞がんで逝去した日本のハードロック界を代表するLOUDNESS(ラウドネス)のドラマーであった樋口宗孝氏の偉業を後世に伝え、日本におけるがん疾患啓発・がん研究を推進するために、CNJとラウドネスのマネジメント事務所・メンバーとの協業プログラムとして設立されました。

樋口宗孝がん研究基金(MHF:Munetaka Higuchi Foundation for Cancer Awareness and Research)は、樋口宗孝氏は、日本のハードロック界を代表するドラマーであり、その存在、ドラミングは、多くのミュージシャンに多大な影響を与えました。国内に留まらず海外にも多くのファンを持ち、尊敬されたドラマーです。彼の訃報は全世界のファンを始め、多くのミュージシャン、著名人にも衝撃を与えました。

欧米においては、NPOとミュージシャン、セレブリティによる慈善活動は一般的なもので、日本においても同様の取り組みができるよう、チャリティーライブ・チャリティーグッズ販売などの寄付により、小児がん研究、希少がん研究の支援を計画しています。





・映像、SNS (Social Networking System) を用いたがん医療情報発信サイトの開設

<http://www.cancerchannel.jp/>

CancerChannel(キャンサー・チャンネル)は、インターネット上で、科学的根拠に基づくがん医療情報を、主としてSNS(twitter、facebookなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス)と映像で発信する新しいがん医療情報サイトで、β versionを2011年1月に開設し、1年半が経過しました。

がん罹患した患者・家族は、自身に対する病気・治療についての情報をインターネットを利用し収集する事があたりまえになり、現在では、新聞・テレビなどのマスメディア・書籍・医療者などを超え、気軽に情報を探せるインターネットが情報源の第一位と言われています。

そのような現状にも関わらず、インターネット上におけるがん医療情報は、患者・家族にとって有害と思われる非標準治療を推奨するサイトも多く、更にYahoo・Googleなどの検索エンジンを用いて上位表示されるサイト(同時に表示されるスポンサーリンクも含め)においてさえ、情報の信頼性が担保されたものではありません。

一方で、一般への認知や普及も十分ではないものの、科学的根拠に基づく情報を発信している団体・組織が運営する患者・家族にとって有益なサイトも多数あります。しかしながら、それぞれの組織・団体のSEO(サーチ・エンジン・オプティマイゼーション)対策を含むウェブ上での情報発信だけでは、例え有益な情報であってもインターネット上のインパクトは大きいとは言えません。

このような背景より、インターネット上でがん医療情報を発信する倫理的評価基準※(1)、及びがん治療専門家による科学的評価基準※(2)の2つの基準を満たした組織・団体が連携し、科学的根拠に基づく、正確で、安全ながん医療情報を発信する事で、インターネット上におけるがん医療情報を最適化する事を目的にCancerChannel(キャンサー・チャンネル)を開設しています。



## 映像×SNS 信頼できるがん医療情報のすべてがここに



### 【アライアンスメンバーの募集】

CancerChannel(キャンサー・チャンネル)では、科学的根拠に基づくがん医療情報発信を行う団体・組織、また、この趣旨に賛同する団体・組織によるアライアンスメンバーを募集しています。

これらには、以下の審査が行われます。

※(1)倫理的評価基準: 東京大学医療政策人材養成講座4期後藤藤班、及びマイクロソフトNPO協働プログラム2009助成プログラムによる倫理的評価基準を利用します。

※(2)医学的評価基準: 複数のがん治療専門医による外部委員により評価します。

CancerChannel(キャンサー・チャンネル)アライアンス・メンバーへの申込みを頂いた場合でも、上記評価により、アライアンス・メンバーにご参加頂けないこともありますことご了承の程お願い申し上げます。



現在、ほぼ毎日更新を続けており、既に300を超える映像コンテンツが公開されています。



キャンサーチャンネルで公開されるセミナー情報・映像公開情報は、ツイッター、フェイスブックでも随時紹介されています。特にフェイスブックの「いいね!」は10,000を超え、ヘルスケア領域で高い認知となっています。





# 【開催セミナー】2011年4月～2012年3月

| CNJ主催・共催・企画・運営セミナー |      |                                               |
|--------------------|------|-----------------------------------------------|
| 開催日程               | 開催都市 | 開催内容                                          |
| 2011/4/16          | 広島   | 第49回日本癌治療学会学術集会 市民公開講座「作ろう新しいがん医療」            |
| 2011/4/16          | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい小児がんのこと                  |
| 2011/4/23          | 新潟   | パープルリボンキャラバン2011「すい臓がんに光をあてる」                 |
| 2011/5/21          | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい“男性のがん”のこと               |
| 2011/5/22          | 東京   | “マイ・オンコロジー・ドリーム”映画「希望のちから」で考える私たちにできること       |
| 2011/6/11          | 東京   | 第23回日本肝胆膵外科学会・学術集会 市民公開講座 パープルリボンキャラバン        |
| 2011/6/11          | 東京   | パープルリボンウォーク2011 「膵がん撲滅を目指して」                  |
| 2011/6/18          | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい「インターネットのがん医療情報」のこと      |
| 2011/7/16          | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい「腎がん・膀胱がん」のこと            |
| 2011/7/17          | 東京   | 緊急討論企画:これでいいのか!? 日本のがん医療                      |
| 2011/7/24          | 名古屋  | 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会 市民公開講座 がん薬物療法の最先端             |
| 2011/7/31          | 弘前   | 第42回日本膵臓学会大会・市民公開講座 パープルリボンキャラバン              |
| 2011/7/9           | 松山   | ブルーリボンキャラバン2011 もっと知ってほしい「大腸がん」のこと            |
| 2011/8/20          | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい「卵巣がん・子宮体がん」のこと          |
| 2011/8/6           | 大阪   | 女性の生き方を考える もっと知ってほしい「子宮頸がん」のこと                |
| 2011/9/17          | 東京   | もっと知ってほしい“肺がん”のこと                             |
| 2011/9/24          | 名古屋  | 第49回日本癌治療学会学術集会 市民公開講座 パープルリボンキャラバン           |
| 2011/9/3           | 札幌   | ブルーリボンキャラバン2011 もっと知ってほしい「大腸がん」のこと            |
| 2011/10/15         | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい“肝臓がん”のこと                |
| 2011/10/28         | 東京   | 映画「50/50」試写会&トークショー                           |
| 2011/10/30         | 名古屋  | 第49回日本癌治療学会学術集会 市民公開講座「新しいがん治療ができるまで」         |
| 2011/11/10         | 大阪   | 映画「希望のちから」を通じて知る “私たちのがん医療”のこと                |
| 2011/11/12         | 東京   | アピタル乳がん夜間学校～課外授業～                             |
| 2011/11/12         | 千葉   | パープルリボンキャラバン2011 「すい臓がんに光をあてる」                |
| 2011/11/13         | 大阪   | アピタル乳がん夜間学校～課外授業～                             |
| 2011/11/19         | 東京   | UDXオープンカレッジ もっと知ってほしい“脳腫瘍(成人・小児)”のこと          |
| 2011/11/26         | 東京   | もっと知ってほしい「がんと漢方薬」のこと 漢方薬の現状とこれから              |
| 2011/11/5          | 大阪   | 大腸がん患者・家族のための無料公開講座 もっと知ってほしい大腸がんのこと          |
| 2011/12/17         | 東京   | UDXオープンカレッジ トレイルランセミナーと、もっと知ってほしい胃がんのこと       |
| 2011/12/2          | 東京   | 「私だけのハッピー・エンディング」試写会+トークショー                   |
| 2011/12/3          | 大阪   | 「私だけのハッピー・エンディング」試写会+トークショー                   |
| 2011/12/4          | 大阪   | ブルーリボンキャラバン2011 もっと知ってほしい大腸がんのこと              |
| 2012/1/21          | 東京   | “Meet the Expertがん専門医に訊く” もっと知ってほしい「皮膚がん」のこと  |
| 2012/1/24          | 大阪   | MBS Jump Over Cancer もっと知ってほしい「がん検診」のこと       |
| 2012/1/28          | 金沢   | ブルーリボンキャラバン2012 もっと知ってほしい「大腸がん」のこと            |
| 2012/2/18          | 東京   | “Meet the Expertがん専門医に訊く” もっと知ってほしい「頭頸部がん」のこと |
| 2012/2/28          | 大阪   | MBS Jump Over Cancer もっと知ってほしい「消化器がん」のこと      |
| 2012/2/2           | 埼玉   | 市民公開講座 もっと知ってほしい「大腸がん」のこと                     |
| 2012/3/17          | 東京   | ブルーリボンキャラバン2012 もっと知ってほしい「大腸がん」のこと            |
| 2012/3/17          | 東京   | “Meet the Expertがん専門医に訊く” もっと知ってほしい「骨軟部腫瘍」のこと |
| 2012/3/27          | 大阪   | MBS Jump Over Cancer もっと知ってほしい「がんとお金・仕事」のこと   |



## 活動計算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目              |                   | 金 額               |                    |
|------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| <b>I 経常収益</b>    |                   |                   |                    |
| 1. 受取会費          |                   | 1,120,000         |                    |
| 2. 受取寄付金         |                   | 62,327,114        |                    |
| 3. 受取助成金等        |                   | 3,170,000         |                    |
| 4. 事業収益          |                   | 47,346,901        |                    |
| 5. その他収益         |                   |                   |                    |
| 受取利息             | 3,276             |                   |                    |
| 雑収益              | 0                 | 3,276             |                    |
| <b>経常収益計</b>     |                   |                   | <b>113,967,291</b> |
| <b>II 経常費用</b>   |                   |                   |                    |
| 1. 事業費           |                   |                   |                    |
| (1) 人件費          |                   |                   |                    |
| 給料手当             | 18,737,337        |                   |                    |
| 臨時雇賃金            | 3,210,221         |                   |                    |
| 法定福利費            | 2,982,870         |                   |                    |
| 福利厚生費            | 1,915,258         |                   |                    |
| 人件費計             | <b>26,845,686</b> |                   |                    |
| (2) その他経費        |                   |                   |                    |
| 仕入高              | 656,941           |                   |                    |
| 業務委託費            | 16,725,294        |                   |                    |
| 諸謝金              | 6,040,255         |                   |                    |
| 印刷製本費            | 5,906,213         |                   |                    |
| 会議費              | 1,940,184         |                   |                    |
| 旅費交通費            | 6,638,225         |                   |                    |
| 通信運搬費            | 11,908,822        |                   |                    |
| 消耗品費             | 867,371           |                   |                    |
| 修繕費              | 26,850            |                   |                    |
| 水道光熱費            | 510,983           |                   |                    |
| 地代家賃             | 3,821,552         |                   |                    |
| 減価償却費            | 331,159           |                   |                    |
| 諸会費              | 278,487           |                   |                    |
| 租税公課             | 2,498,630         |                   |                    |
| 研修費              | 23,998            |                   |                    |
| 支払手数料            | 309,897           |                   |                    |
| 会場費              | 3,162,874         |                   |                    |
| 広告宣伝費            | 972,401           |                   |                    |
| 交際費              | 75,331            |                   |                    |
| 消耗什器備品費          | 851,718           |                   |                    |
| 支払助成金            | 87,432            |                   |                    |
| 雑費               | 131,230           |                   |                    |
| その他経費計           | <b>63,765,847</b> |                   |                    |
| 事業費計             |                   | <b>90,611,533</b> |                    |
| 2. 管理費           |                   |                   |                    |
| (1) 人件費          |                   |                   |                    |
| 給料手当             | 2,984,493         |                   |                    |
| 法定福利費            | 461,052           |                   |                    |
| 福利厚生費            | 269,312           |                   |                    |
| 人件費計             | <b>3,714,857</b>  |                   |                    |
| (2) その他経費        |                   |                   |                    |
| 印刷製本費            | 42,653            |                   |                    |
| 会議費              | 137,623           |                   |                    |
| 旅費交通費            | 235,369           |                   |                    |
| 通信運搬費            | 1,745,136         |                   |                    |
| 消耗品費             | 108,796           |                   |                    |
| 修繕費              | 944,150           |                   |                    |
| 水道光熱費            | 51,868            |                   |                    |
| 地代家賃             | 147,434           |                   |                    |
| 減価償却費            | 51,186            |                   |                    |
| 諸会費              | 23,633            |                   |                    |
| 租税公課             | 180,832           |                   |                    |
| 支払手数料            | 2,127,797         |                   |                    |
| 交際費              | 4,782             |                   |                    |
| 研修費              | 765               |                   |                    |
| 消耗什器備品費          | 84,660            |                   |                    |
| 諸謝金              | 59,860            |                   |                    |
| 固定資産除却損          | 389,773           |                   |                    |
| 雑費               | 312,994           |                   |                    |
| その他経費計           | <b>6,649,311</b>  |                   |                    |
| 管理費計             |                   | <b>10,364,168</b> |                    |
| <b>経常費用計</b>     |                   |                   | <b>100,975,701</b> |
| <b>当期正味財産増減額</b> |                   |                   | <b>12,991,590</b>  |
| <b>前期繰越正味財産額</b> |                   |                   | <b>21,694,228</b>  |
| <b>次期繰越正味財産額</b> |                   |                   | <b>34,685,818</b>  |

# 貸借対照表

平成23年4月1日～平成24年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目               | 金 額        |            |            |
|-------------------|------------|------------|------------|
| <b>I 資産の部</b>     |            |            |            |
| <b>1. 流動資産</b>    |            |            |            |
| 現金預金              | 27,976,842 |            |            |
| 未収金               | 9,506,979  |            |            |
| たな卸資産             | 837,802    |            |            |
| 前払金               | 22,220     |            |            |
| <b>流動資産合計</b>     |            | 38,343,843 |            |
| <b>2. 固定資産</b>    |            |            |            |
| (1) 有形固定資産        |            |            |            |
| 什器備品              | 114,182    |            |            |
| <b>有形固定資産計</b>    | 114,182    |            |            |
| (2) その他の固定資産      |            |            |            |
| 保証金               | 1,500,000  |            |            |
| ソフトウェア            | 58,042     |            |            |
| <b>その他の固定資産計</b>  | 1,558,042  |            |            |
| <b>固定資産合計</b>     |            | 1,672,224  |            |
| <b>資産合計</b>       |            |            | 40,016,067 |
| <b>II 負債の部</b>    |            |            |            |
| <b>1. 流動負債</b>    |            |            |            |
| 未払金               | 768,114    |            |            |
| 未払消費税等            | 928,600    |            |            |
| 未払費用              | 504,474    |            |            |
| 前受金               | 2,400,000  |            |            |
| 預り金               | 729,061    |            |            |
| <b>流動負債合計</b>     |            | 5,330,249  |            |
| <b>2. 固定負債</b>    |            |            |            |
| <b>固定負債合計</b>     |            | 0          |            |
| <b>負債合計</b>       |            |            | 5,330,249  |
| <b>III 正味財産の部</b> |            |            |            |
| 前期繰越正味財産          |            | 21,694,228 |            |
| 当期正味財産増減額         |            | 12,991,590 |            |
| <b>正味財産合計</b>     |            |            | 34,685,818 |
| <b>負債及び正味財産合計</b> |            |            | 40,016,067 |

## 財務諸表の注記

### 1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜経理方式によっています。

### 2. 事業別損益の状況

別紙参照

### 3. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

| 科 目    | 期首取得価額    | 取得 | 減少      | 期末取得価額    | 減価償却累計額     | 期末帳簿価額  |
|--------|-----------|----|---------|-----------|-------------|---------|
| 有形固定資産 |           |    |         |           |             |         |
| 什器備品   | 1,517,800 |    |         | 1,517,800 | △ 1,403,618 | 114,182 |
| 建物付属設備 | 714,000   |    | 714,000 | 0         | 0           | 0       |
| 無形固定資産 |           |    |         |           |             |         |
| ソフトウェア | 4,237,000 |    |         | 4,237,000 | △ 4,178,958 | 58,042  |
| 合 計    | 6,468,800 | 0  | 714,000 | 5,754,800 | △ 5,582,576 | 172,224 |

## NPO法人キャンサーネットジャパンにご寄付下さい

皆さんの周りに、政府・行政でも、民間企業でも解決できない、あるいは解決が難しい問題はないでしょうか？

例えば、実際にはなかなか進まないワーキングマザーへの子育て支援、ワーキングプアと呼ばれる若者たちに希望の持てる職場への就労支援、様々な病気に起因した社会参画の難しさなど、多くの日の当たらない、忘れられたかのような社会的問題があります。

このような問題に、勇気をもって声をあげる人がいることから、また政府・行政、民間企業をも動かし、ゆっくりではありますが、問題解決に進むこともあります。しかし、これらの問題を、政府、行政、企業だけによらず、自分達の活動で変えて行こう、社会変革を起こそうというのが、いわゆる「新しい公共」NPO法人の役割です。

わたしたちNPO法人キャンサーネットジャパンの認識する、解決すべき問題は、

- ① がん患者・家族が、主体的にがん治療に取り組める科学的根拠に基づく情報が十分に伝わっていないこと
- ② 小児がんを含む罹患者数の少ないがん種(いわゆる希少がん)における医療情報が少ないこと
- ③ 日本において患者・家族の希望につながる薬剤の開発、いわゆる臨床試験のファンドが十分でないこと
- ④ がんに対する疾患啓発が十分でないことから、がん患者・家族への偏見があること
- ⑤ がん体験者(特に若年性のがん経験者)が働く事が困難であること

などです。

①がん啓発月間だけにごんに罹患するわけではなく、継続的に、様々な媒体を用い、より多くの患者・家族に届くがん医療情報を提供し続けます。②例え運営が難しくともNPO(CNJ)の役割と認識し、情報発信を続けます。③日本で臨床試験を進める医療者を支援します。④様々な団体・組織と連携し、がん疾患啓発に情熱を傾けます。⑤これら4つの課題を解決するために、私たちの組織自体(CNJ)が、志ある、将来ある、がんを体験した若者の就労の受け皿となれるようになります。

わたしたちが提供するプログラム、取り組みには、形がありません。CNJのセミナーに参加して、CNJの動画コンテンツを視聴して、「とても参考になりました」、「あなたたちの存在が助けになった」、1人でもこう思われる方がいるだけで、わたしたちが社会に存在する意義があると思っています。そして、わたしたちが様々なリソースを確保し、存続できる事が、社会の要請であると信じています。

日本で4万とも5万とも言われるNPO法人について、その法的位置づけは広く認識されていないかもしれません。また、必ずしも正しく認識されていないかもしれません。しかし、多くのNPOは、様々な社会的課題解決のため、様々な形態でそれらの領域で、少しずつ問題解決に貢献しています。

ここ1-2年で、政府・行政でも、民間企業でも取り組む事が困難であった社会的課題に取り組んだNPO法人・様々なステークホルダーの努力によって、新寄付税制の成立(寄付に対する税額控除など)、NPO法の改正(仮認定制度の導入など)がすすみ、寄付者にとっても、寄付を受ける側にとっても、好ましい環境となってきました。

私たちNPO法人キャンサーネットジャパンは、日本人の2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなるこの時代に、行動(ACTION)を起します。Attention(どうか、この問題を知って下さい)、Change(変化を恐れませんか)、Trust(信頼がおける組織体制で活動します)、Imagination(常に想像力を持って活動します)、Only One(CNJにしかできないことに取り組みます)、Network(志ある皆さんとの連携を期待しています)。

がん医療領域における課題解決のために、どうかNPO法人キャンサーネットジャパンにご寄付下さい。日々ご支援頂く皆様、また最後までお読み頂いた皆さんに感謝申し上げます。

<http://www.cancernet.jp/>